"あいあいの安否確認"毛細血管を張り巡らせよう

11 月の地区連役員会におい中の島地区福祉のまち推進センター"あいあい"から、事業対象者等の状況についての報告がありました。

"あいあい"の事業の柱ひとつに「安否確認の訪問事業」があります。平成 11 年 4 月にスタートしてから今年 4 月現在の比較において、事業対象者(75 歳以上)の 1 人暮らしは男女共 2.8 倍に増え、それにつれて訪問希望者も 2.7 倍に増加しています。しかしながら事業の担い手である訪問福祉活動員は 30 人から 25 人へと減少しているとのことです。今後更に訪問希望者が増えると予想されるのに、福祉活動員が減少していることは、福祉活動員一人当たりの負担が増していくことは火を見るよりも明らかです。このような現状に鑑み、参考までに私の経験を記したいと思います。

私の第3町内会では、年に1回'家族そろってお出かけしよう'というスローガンの もと日帰り親睦旅行を実施しております。3年程前のことです。旅行の幹事をしていた 私のところへ民生委員のYさんから電話がありました。「一人暮らしの T 男さんを旅行 に参加させたいので力を貸して欲しい。」とのことです。よく話を聞いてみると、T 男 さんはひき篭もり気味、酒浸りで入退院を繰り返している、町内会には入っていないが、 何とか立ち直らせたいとのことでした。はてさて私に何ができるのかと思案しつつ、Y さんの熱意に動かされ一緒にT男さん宅を訪問することにしました。数日後、T男さん の万年床の部屋に上がらせてもらい、Yさんが最近の様子を手短に聞き、私から町内会 に入ることを勧め、ぜひ旅行にも参加して欲しいと話をしました。内心は無理かなと思 いながら T 男さん宅を辞してきたのですが、その後、Yさんから旅行には参加しない が町内会には加入したいとの意思表示があったとの連絡を受けました。意外な展開に内 心驚きを覚えながらも、すぐに町内会として会費の集金業務をどうするか等の対応に思 いを巡らせました。T男さんの現状を考えると班長さんにお願いするよりも、安否確認 を含めて私が担当するのが良いとの判断から、月 1 回 T 男さん宅を訪問することにし ました。最初の頃の訪問時は、いやいやドアを開けるのが感じられたり、小銭の持ち合 わせがないとの理由で集金ができないこともありました。それでも「町内会の回覧板や 市からの広報誌はきていますか、盆踊りに参加しませんか」等の声をかけながら訪問を 続けました。その状況については Y さんにも随時報告しました。そんなある時 T 男さ んの態度に変化が現れているのに気がつきました。私の訪れを心待ちしている様子が見 受けられたのです。その後も町内会行事への参加は叶うことはありませんでしたが、天 気の良い日には散歩する姿を見かけるようになりました。私が仕事での出張の折、買い 求めた土産のお裾裾分けをすると大変喜んでくれたりもしました。

今年の夏のある日、恒例の T 男さん宅の訪問、チャイムを鳴らしても反応がありません。この時間に外出しているはずはないのだが、と思案しつつ、時々ノックをしながら暫く戸口に佇んでいると、漸くドアの開く音がしました。私の顔を見て「ああ会費だね」といって小銭入れを取りに戻りました。パジャマ姿の足元は見る目にも覚束なく、よろよろしながらやっとのことで町内会費を渡してくれました。

いつもの様子と違うことを民生委員のYさんに知らせました。Yさんはもう既にその様子を把握しており、迅速に対応してくれました。数日後、ソーシャルワーカーと相談の上、入院をさせたとの連絡がありました。1人暮らしで身寄りのないT男さんは、もう社会復帰は難しいだろうとの判断から、退院後は、施設に入ってもらうことを検討しているとのことでした。

私のささやかな体験から民生委員をはじめとする訪問に係わっている皆さんのご苦労と仕事の重要性を痛感しております。そんな重要な訪問の役割を担う民生委員や福祉活動員のなり手がいないことは非常に残念なことです。そんな訪問員の負担を少しでも軽減するために、個人情報は民生委員や訪問活動員が管理し、訪問の一端を身近で係わりをもてる人に協力を願う。そんな形の役割分担で、必要に応じての緩やかなネットワークの構築を目指してはどうでしょうか。毛細血管を張り巡らせるような。